

会議のトピックス(I)

日本原子力学会核データ部会・炉物理部会企画セッション OECD/NEA 核データ評価国際協力 ワーキングパーティー (WPEC) における活動

OECD/NEA の科学委員会傘下の核データ評価国際協力ワーキングパーティー(WPEC) は、評価に関する国際協力を推進するため開設され、1989 年から活動を行っている。これまで 28 のサブグループが開設されたが、その多くは活動を終え、各々最終報告を完成しており、WPEC のホームページ (<http://www.nea.fr/html/science/wpec/index.html>) からダウンロード可能である。そのテーマ一覧から明らかなように、サブグループは炉物理分野のユーザーからのフィードバックがその根底にある活動がほとんどである。実際、WPEC メンバーには核データより炉物理に近い人（両方が分かっている人）も少なくない。一方、日本では WPEC 活動を炉物理分野にたいしてあまり PR して来なかった。両分野の専門家にまたがる核データ／炉物理合同セッションは、炉物理分野の専門家に活動の内容と成果を知ってもらうには最適な機会であり、この観点から、核データ／炉物理合同セッション「WPEC における活動」を企画した。

企画セッションでは、次の 5 つの発表を行った。

- (1) OECD/NEA 核データ評価国際協力ワーキングパーティー (WPEC) の全体像と最近の活動
(原子力機構) 片倉 純一
- (2) 分離／非分離共鳴領域における共分散の評価とその処理 (SG-20)
(原子力機構) 千葉 豪
- (3) FP 核データに関する国際協力活動 (SG-10, 17, 21, 23)
(KEK) 川合 将義
- (4) 核データ収納フォーマットの処理 (SG-B) と High Priority Request List (SG-C)
(原子力機構) 深堀 智生
- (5) 断面積以外の活動—遅発中性子 (SG-8) と FP 崩壊熱 (SG-25)
(武蔵工大) 吉田 正

発表の概要を以下に掲載する。

(編集委員会)